



減塩実践紙芝居作りに向けて話し合う陸前高田市保健推進員の有志ら

「NO卒中」へ紙芝居

減塩啓発アイテムに

陸前高田市の保健推進員の有志14人は、市健康推進課と協力して本県が死亡率全国ワーストの脳卒中予防をテーマにした減塩実践紙芝居を作っている。「任期が2年間の保健推進員同士で引き継げる物を作りたい」と企画し、2月上旬の完成を目指す。保健推進員主導の取り組みは震災後初の試みで「脳卒中は『NO卒中』」を合言葉に、内容充実へ話し合いを深めている。

陸前高田市の保健推進員有志

紙芝居は減塩に向けた保健推進員の職種も多様な食事の説明や市内男性の経験談、男性の妻の取り組み、市内スパーや新聞報道による予防活動など豊富な内容を、写真や絵を交えて紹介する。

昨年10月から製作を開始。保健師や栄養士、看護師など活動に参加する

来月の完成目指す

同市の保健推進員は約130人いるが、7割は任期2年で交代する。今回の発起人でもある鈴木秋子市保健推進員代表は「(新しい人に)代わって引き継ぐことはもちろん良いが、いつも第一歩から始まってしまおう。つながりが陸前高田の健康に結びつけば」と力を込める。

脳卒中予防のほか、気仙地域の医療関係者でつくる劇団が行っている口腔ケアの寸劇の紙芝居化にも取り組んでいる。市健康推進課の村上有紗保健師は「自主活動の輪が広がれば健康への意識も高まる」と期待を寄せ